

第46回ジュニアバドミントン大会ルール（シングルス編）

I 試合のルール（ラリーポイント制）

1 ラリーに勝った方が得点するラリーポイント制とする。（バレーボールと同じ）

ここで言うラリーに勝つということは、相手側がフォルトをするか、シャトルが相手のコート内に落ちてインプレーでなくなった場合をいう。

※ サーブをした方がラリーに負けたときは、サービスオーバーとなり、レシーブ側が1点を得る。

2 サービスをするときのコートとサービスをする人の順序

(1) 最初のサービス権はジャンケンで決めます。

(2) 得点が0点及び偶数点の場合右側コート、奇数点の場合は左側コートからサービスします。

(3) 試合開始後のサービス権は得点を得た方に与えられます。

※詳細について別紙参照。

3 インターバル

すべてのゲームで、一方のサイドが8点になったとき60秒を超えないインターバルを認める。（8点でチェンジエンド）

4 試合中のルール

(1) サービスをするとき

- ・ 床から115cm（ひじの位置）より下で打つ
- ・ 足を床につけて打つ
- ・ 線を踏んだり、またいだりしない

(2) 打ち合いの最中

- ・ ネットにさわらない。オーバーネットしない
- ・ ラケット以外でシャトルにさわらない。1回で打ち返す。

(3) その他

- ・ スポーツマンシップを持つ。相手にやじを飛ばしたり威嚇したりしない。

5 試合方式と点数

(1) 試合は予選リーグと決勝トーナメントで行う。

① 各試合は15点1ゲームで行う。

② 15点先取（14オール時の延長なし）

(2) 決勝トーナメントからは2ゲーム先取で勝敗を決める。

II 試合の進め方

1 選手集合・整列・あいさつ

コート内でネットをはさんで行う。

2 試合

(1) あいさつ ネットをはさんであいさつ・握手をする。

(2) トス (じゃんけん)

勝った方が次のどちらかを選び、負けた方が残りを選ぶ (本大会特別ルール)

- ・ サービス権・・・最初にサービスをするか、しないか
- ・ コート選び・・・最初にどちらのコートをとるか

(3) サービスをする人、レシーブする人がコートの右側に入り、主審の「ラブオールプレイ」の合図で試合を始める。

(4) その後は、サービスの順番により試合を進める。

(5) 最初に8点になった時点で、チェンジエンドをする (コートチェンジ)。インターバルとして60秒以内に行う。

(6) 15点になった時点で、主審が「ゲームオーバー」を宣言するので、試合終了となる。

3 試合終了時

選手はネット前に整列して、あいさつを行う。

監督は、スコア用紙の勝利者サイン欄にサインを行う。

III 作戦

- ・ 相手のいないところへシャトルを打つ。重要な戦法、相手を動かせばチャンスあり
 - ・ 強い球を打ちこむ
- 相手を打ち負かすことができれば最高。しかし、打球が弱いと反撃される

【バドミントンの歴史】

1873年イギリスの貴族ビューフォード公が領地のバドミントン荘でパーティーを開いた。その時インド帰りの陸軍将校がインドのプーナ・ゲームを紹介したのがそのもの始まり。1887年頃にはほぼ現在の形になった。日本では大正～昭和に横浜(YMCA)で始められ、戦後発展した。